

みんな知ってる？遊軍記者

しんぶん新聞

令和5年8月
学校6年
加藤誠士郎

知らなかった！遊軍記者！

僕は毎年小学生新聞グランプリに参加しています。今年の新聞を作るとき、普段読んでいた新聞はどの様に作られているのか聞かため、取材を申し込んだとき、「遊軍記者」という仕事がある事を知りました。

どんな記者なのか？

遊軍記者とは特定の部には所属せず、大きな事件や事故がおきた時に現場に投入される記者のこと。普段は連載記事などを担当し、継続的に取材をして記事を書いています。情報を素早く集める記事にする。

北海道新聞社編集局報道センター記者の後藤耕作さん32に取材しました。



「読んだ人が、頑張ろう！と思えるような記事を書きたい」と意気込む後藤記者。

後藤記者は遊軍記者として防災やボートパークの記事を担当。すばやく道内各地の災害の現場に駆け付けたりJRや天気の情報などを集めて記事にします。防災の仕事は数値やデータが多く、難しい部分があるそうです。現場に行くと何時間も待機したり、急に取材になることもあり、大変だと聞かせてくれました。

取材する人の気持ち大切に

後藤記者は、取材した人の思いや考えを、できるだけ伝えることを大切にしています。そのために、取材した人の言葉をよく聞いて、記事にするとき自分の思い込みや推測で書かないよう、確認したりも一度話を聞くなどの工夫をしています。

北海道新聞には各地域のニュースや話題を伝える地域面があるのを知っていますか？僕の住む地域を担当する矢崎弘之さん冠を取材しました。地域面には他の面域の取材に親しみを地元の人が多く登場している、身近に感じてもらうためと教えてくれました。

今の自分だからできた取材

南西沖地震の連載の取材の時災害当時は聞けなかった話を今の自分が聞き取ることができたとき、やりがいを感じたと話して自分自身も初めて載った記事が一面を占めた時、取材をしてくる人がいたこともうれしかったです。

ほかにも！こんな記者がいます

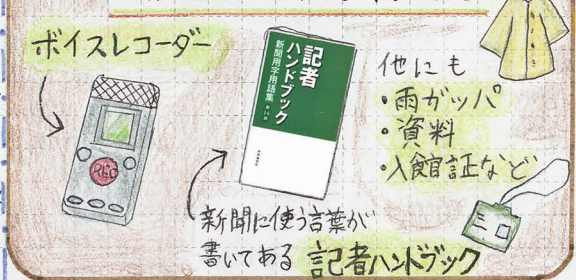
写真記者↓写真専門デスク↓記事チェック整理記者↓レイアウト校閲記者↓間違いを見る取材してみてもいいよ！



士別支局の支局長矢崎弘之さん冠



新聞記者の持ち物公開



豆知識

実は新聞紙のサイズは30年前から変わっていない(46cm×40cm)黒い白めきの見出しは事件や事故の記事に使われる1人2人の記事の場合記者の名前が3人、人が多いと取材班、2人

地域面～写真にも注目～

この「遊軍」の写真は、記事のポイントを一番大事に撮ることにしています。写真が大きい記事だと、写真が伝わる内容がわかりやすいです。写真が大きい記事だと、写真が伝わる内容がわかりやすいです。写真が大きい記事だと、写真が伝わる内容がわかりやすいです。

新聞を作るのは本当に大変でした。取材をした内容をまとめる、伝えたいことを長い時間にする作業は、とても長い時間がかかります。取材は、とても長い時間がかかります。取材は、とても長い時間がかかります。

編集後記

読者のみなさん、こんにちは。今回の取材は、とても大変でしたが、とても楽しい経験でした。取材は、とても大変でしたが、とても楽しい経験でした。取材は、とても大変でしたが、とても楽しい経験でした。